



西遊記あらすじ

三蔵法師は三人のおと
もの者を連れ天竺の国へ
三歳の経をとりに行くこ
とになった。

おともの者は、石から
生まれた石猿・孫悟空、
鷺の妖怪・猪八戒、河童
の妖怪・沙悟淨。

天竺へ向かう旅は容易
なものではなかつた。
三蔵法師をねらう魔物
や妖怪たちが次々と一行
におそいかかつてくる。
これらの妖怪・魔物を
相手に、孫悟空たちが奮
闘する。

この本ではそのうちの
一部、金角・銀角の巻を
紹介しました。

定価 250円

8771-014089-7101
雑誌コード36317-17

てんじくの くにへ ありがたい
おきょうを とりに いく
さんぞうほうしの いつこうが
やつてきました。

おともを するのは そんごくう、
はつかい、さごじょうの 三にん。
けわしい やまみちに くると
にわかに そらが くもつて
きました。
「あやしげな くもだな。
なにか あるぞ！」

さんぞうほうし

さこじょう

そんごくう

はつかい



きんとうん

「ちよつと おいらが ようすを
みてこよう」
そんごくうは いうが はやいか
きんとうんに とびのり、あやしげな
くもがたちこめる いわやまへ
とびたちました。
しばらく いくと ようかいが
みはりを している ほらあなが
みえました。
「あやしげな ほらあなだぞ！」



そんごくうが ようすを みにいつた
あいだに、てに てに ぶきを もつた
いちみが おそいかかつて きました。
あの いわやまに すむ きんかく・
ぎんかくだいおうの けらいたちです。
さんぞうほうしたちを つかまえて
たべてしまおうと いうのです。
はつかいと さごじょうが たたかい
ましたが かないません。
ついに つかまつてしましました。

きんかくだいおう

さんぞうほうしが きんかくだいおう
たちに つかまつたと しつた
そんごくは おこりました。
すぐさまに きんかくだいおうの
ほらあなに とびこみましたが……
ひょうたんが まちうけて いました。
なまえを よばれて へんじをする
と ひょうたんの なかに すいこまれ
てしまうのです。

きんかくだいおう



「そんごくう」

「なんだ」

へんじを して しまつた
そんごくうは ひょうたんの なか
に すいこまれてしましました。

このままでは とけてします。

しかし、そんごくうは じつと
ふたを あけるのを まちました。

「もう とけたかな?」

きんかくが ふたを あけたとき
そんごくうは はちに ばけて

にげだしました。





そとへ とびだした そんごくうは
まほうの ひょうたんを すりかえて
きんかく・ぎんかくだけおうを
よびました。
じぶんたちの もつ ひょうたんが
ほんものだと おもつた ぎんかくが
「なんだ！」
と へんじを しました。
その しゅんかん、ぎんかくは
あつと いうまに ひょうたんに
すいこまれて しまいました。

きんかくは あわてて
けらいを よびあつめました。
「かれ、そんごくうを
やつつけろ！」
でも そんごくうも
まけては いません。
からだの けを ひきぬい
て ひとつきすると……
なんにんもの そんごくう
が とびだし みんなに
とびかかりました。
きんかくだいおうは つい
に こうさんしました。

